

2024 年度 市民が共におこすまちづくり事業補助金報告書

心音(ココロオト)の恩送り

～第3回今治発 Brave Heart 楽団チャリティコンサート～

一般社団法人 Brave Heart 楽団 代表理事 竹之下乃子



1：開催日時、場所

- 開催日時：2024 年 11 月 24 日（日） 13：30～16：00
- 開催場所：波方公民館大ホール

愛媛県今治市波方町樋口甲 2 5 3

2：内容

- 事業の目的

障がい(発達障がい含)や病のある子もない子も、音楽のバリアフリーを掲げて共に活動する中で、差別や偏見のない共生社会の実現を今治市から波及させる。また保護者や共感する大人たちによるネットワーク作りにより、当楽団の理念を広め、誰もが住みやすいまちづくりに繋げていくことを目的とする。

- 事業の内容

「心音の恩送り～第3回今治発 Brave Heart 楽団チャリティコンサート～の開催」

昨年度助成頂いたコンサート活動を更にレベルアップさせ、子ども達が主体的に考えた音楽劇を作り上げるとともに、参加体験型のコンサートを構成し、11月24日に波方公民館大ホールを会場として第3回チャリティコンサートを行った。また、コンサート前に当楽団保護者やフリースクール主催者、今治市手をつなぐ育成会会長などをパネリストとして、誰もが住みやすいまちづくりのトークセッションを行い、市民の皆様とともに共生社会について考える場を設けた。

今回のコンサートに至るまでの活動の中で、松山市に拠点を置く「みんなだいすき」という演劇団体と知り合うことができ、音楽劇やコーラス、吹奏楽で賛助出演して頂いた。主催者の方が元支援学校教員であり、坊ちゃん劇場でスタッフとしての活動歴があり、当楽団と同じ理念で活動されていたことから実現できたコラボレーションで、トークセッションと音楽劇ともに、更に良いパフォーマンスが披露できたと思っている。

当日来場者数は約110名で、昨年度を遥かに越える市民の皆様に足を運んで頂けたのは、当事業に選定頂いたおかげだと考える。

・チャリティコンサートの意味について

チャリティであるので、もちろん寄付を募って開催しているが、当楽団に対する寄付を募るだけではなく、当楽団が何らかの社会貢献をなすことも意図している。障がいや病を抱える者は、常に社会的弱者として、誰かに応援してもらおう立場であることが多いが、そんな垣根をも取り払い、誰もが誰かを応援したりされたりする世の中を願い、当楽団は活動している。第1回チャリティコンサートでは、18トリソミーの少女に足漕ぎ車いす「COGY(コギー)」を贈呈した。今年度は、今治市内で自然農法をされている今治自然栽培農業学校へ苗代などの寄付と、今治市内のフリースクールみんなのアトリエへ活動資金の寄付を行うことができた。

・事業の開催方法について

開催については、今年度は会場の立地条件もあり、オンライン配信が難しく、当日会場でのリアル参加にて開催した。当楽団のファンクラブ会員へはFacebookライブを配信した。

・集客について

集客はチラシとSNSを活用した告知を行った。まずは、本事業に今治市と今治市教育

委員会の後援を依頼し、その旨を載せたチラシを 10,000 部作成した。今年度は、今治市内の全小学校(島しょ部除く)と中学校数校には、今治市教育委員会を通じて全戸配布してもらった。また、今治特別支援学校と今治東中等教育学校の中学部にもチラシを持参し、全戸配布をお願いした。その後残ったチラシを団員で手分けをして、今治市内の公民館、商業施設、介護福祉施設、病院などに掲示や配布をお願いした。また、西条市在住の団員もいるため、西条市内でも各施設にお願いをした。どの施設でも興味をもって頂き、快く掲示や配布に協力して頂き、大変感謝している。SNSでの告知は当団員を中心に、多くの方にご協力頂き、周知を図った。

また、今年度は 500 人規模のホールを使用するため、集客がなかなか大変であると考えていたところ、ゲストとして呼び出す杉山明氏より、前日リハーサルのため今治市に来ているので、前夜祭ライブを出演料無料で行ってはどうか？との提案を頂き、集客のため、前夜祭ライブを行った。

結果的に前夜祭ライブの来場者数は 30 名、コンサート当日の来場者数は 110 名と、昨年度をはるかに超える数の市民の皆様にご足を運んで頂いた。

・事業の効果

今回のコンサートの第 1 部であるトークセッションを行えたことで、市民の皆様とともに「多様性社会」について様々な角度から語り合うことができたことが大きな成果であると感じた。障がいの有無はもちろん、不登校、貧困、ジェンダーなど「多様性」が分断を生む世の中であってはならないし、今治市が住みよいまちであるために「格差・分断」のない社会を目指す、良いきっかけとなる話をし合えたのではないかと考える。

また、第 2 部のコンサートでは、吹奏楽・器楽演奏、コーラス、音楽劇、ダンスと幅広い活動を披露することができ、子ども達も親(大人)も達成感を得て、自己肯定感が高まったのではないかと考える。昨年度から 2 年連続で助成頂いたお陰で楽団の活動の幅も広がり、周知もされるようになり、子ども(18 歳以下)は 35 名、親や大人は 20 名、「みんなだいすき」のメンバー 10 名の総勢 65 名が参加するコンサートとなった。子ども達は障がいや病のある子、ない子、不登校児、障がいのある子のきょうだい児など、立場も様々だが、「音楽のバリアフリー」を体感して、仲良く活動ができている。親たちも同様である。そんな当楽団の大家族のような様子を市民の皆様にご発信できたことで、偏見・差別のない今治市のまちづくりの一助にはなれているのかもしれないと感じる。

3：所感

来場頂いた参加者の皆様、事業開催にあたりご協力頂いた多くの関係者の皆様に謝辞を申し上げます。

本事業に採択されたおかげで、プロの方々や遠隔の出演者と直接会って交流の機会を持つことができ、普段と違う色々な体験ができたことが、障がいや病のある子ども達の積極性を伸ばす一助になったと、コンサートを終えた子ども達の様子を見て感じている。普段応援される側にいることが多い障がい児・者も、自らのパフォーマンスによって、応援する側にも立つことができることが実践され、だれもが社会貢献できるという自信に繋げることができたのではないかと考えている。今後は施設慰問活動や地域行事などに積極的に参加し、地域社会に貢献できる機会を増やしていきたいと考えている。

事業を開催しての効果に、確かな手応えを感じている。何より、市民の皆様と共に音楽を共有し、垣根を越えた一体感を得ることのできるコンサートを、今治市で実現し、継続していくことこそ、これからの子ども達に必要なことであると実感している。今後とも、人と人がつながり、地域について考え、その助けとなる活動ができればと思っている。

本事業を支援頂いた、多くの方に感謝申し上げ、本事業活動報告とする。以上。

4：当日の写真など



※ 前夜祭ライブ



※ 第1部トークセッション



※ 全体コーラス



※ 吹奏楽隊



※ ゲストステージ①



※ 音楽劇



※ ハンドベル



※ ダンス



※ ゲストステージ②



※ ゲストステージ③



※ 集合写真①



※ 集合写真②